

日本伝統文化センターの建設を

(ジャパンシアター)

野田 聖子

日本は古来からいろいろすぐれた民族文化が、現在にまで継承されてきている。例えば、茶道、華道、書道、日本画といった伝統的な文化、歌舞伎、能、文楽、日舞、邦楽などの伝統芸能、木工、和紙、陶磁、刀剣、石工のような伝統工芸、さらには、かるた、羽根つき、こま、折り紙といった伝統的な遊びや、盆踊り、おみこし、山車、縁日などの伝統的なお祭り、そのほか、和服、日本料理、日本建築と数え上げたらきりがなほである。

私がこのたび提案した「日本伝統文化センター」(愛称ジャパン・シアター)は、こうした日本の伝統文化のすべてを、動的側面を中心にとり、そのショーウィンドウ的役割を参加学習の便宜提供を図ることを目的とする行動型かつ滞在型の一大プロジェクトスペースを建設し、日本伝統文化のとりでとしようとするものである。

すなわち、ジャパン・シアターの特徴の第一は、日本伝統文化を幅広く集大成的に捉えることにある。その理由は、ここを訪れさえすれば日本伝統文化についてのひとわたりのことは知ったり、学んだりできるというショーウィンドウ的価値が、修学旅行、外国人旅行者などに対する絶大な集客効果をもたらすからである。現に諸外国にはこうした施設があり、多くの観光客や子供達を集めていると聞く。また、伝統文化の総体に触れることから得られるサムシングは、日本伝統文化の真の理解に少なからず寄与するものと考えられる。

ジャパン・シアターの特徴の第二は、動的側面を中心構成するという点である。いわゆる博物館的な静的な展示や陳列ではなく、伝統文化が作り出される過程を実際に演じて見せるということである。いけ花を例にとれば、いけら

れた作品を展示するのではなく、花をいける有様を見せるのである。そして、ここを訪れる人は、自由にこれに加わり、学習し、演じるという参加学習が期待される。

次に、このセンターの設立の意義について簡単に列挙してみる。

- ① 日本の伝統文化のすばらしさを内外の人々に宣伝する場となること。
- ② 日本伝統文化の重要性が再認識される場となり、保存、継承にも資するもの。
- ③ 日本の民族文化のすべてを世界の人々に知ってもらう場を提供することが、真の国際化の促進になること。

最後に、なぜセンターを岐阜にもってきたいのか、その理由は、まず岐阜は日本の中心に位置し、交通の便がよく、内外の観客を集め易いこと、さらにより広域的に見れば、明治村からこのジャパン・シアターをへて京都、奈良に通じる、いわば「日本伝統の道」(ジャパンクラシックロード)を形成することが考えられることから、わが国の中でも最適の地であるといえるからである。

また、本県は、古くから田舎歌舞伎、芝居、文楽などの伝統芸能や和紙、木工、陶磁、刀剣といった伝統工芸が盛んであり、今日でも日舞や茶道、華道などに関心が高く、伝統文化の地として定着しており、このようなプロジェクトが受け入れられ易く、維持され易い素地があること、さらに長良川、金華山で代表される山水の織りなす日本的景観に恵まれ、適地を得やすいことなどをあげることができる。

このプロジェクト実現のため、皆様のご協力を切にお願いする次第である。

(岐阜県議会議員)

各務原市歴史民俗資料館

〒504 各務原市那加桜町2丁目186

TEL (0583)83-1111 内728

名鉄各務原線「各務原飛行場前」駅を下車で1分ほど南に歩くと、右手に各務原市保健文化会館が見えてくる。この2階の一角に各務原市歴史民俗資料館がある。3階には図書館ももうけられており、図書館とセットで利用することができる。

歴史民俗資料館という名称であるが、民俗資料は炉畑遺跡の近くに移築された明治時代の民家「旧桜井家」に一括保管展示されている。そのため、資料館に陳列されているのは市内各地から出土した考古資料が中心である。圧巻は縄文時代の炉畑遺跡・奈良時代には全国でも屈指の窯業地帯であった美濃須衛古窯跡群の出土品だ。かなり遠隔地から見学にくる研究者も多いようだ。

各務原市は遺跡の宝庫である。毎年発掘調査される遺跡の数は県下でも一二を争う。現在整理中で展示できない貴重な資料を多数抱えており、今後ともますます充実した展示になってゆくだろう。

昭和62年度から専任の職員が配置され、特別展示を年数回開催するなどソフト面にも力をいれてきた。今後とも、各務原市の歴史的特色を生かした活動が期待できよう。

(岐阜市歴史博物館 土山公仁)



馬瀬村歴史民俗資料館

〒509-62 益田郡馬瀬村名丸

TEL 057647-2111

県下第2位のロックフィルダムである岩屋ダムを北上すると、馬瀬川沿い名丸に馬瀬村役場があり、道路を隔てて歴史民俗資料館があります。馬瀬村には縄文・弥生時代の遺跡が25知られていますが、その埋蔵物のほとんどは散逸しているのが現状で、そのことは民俗についても同様です。そこで、村の歴史・民俗資料を保存しようと、村に呼びかけ資料を収集し、資料館を建設したのです。収集あるいは調査された資料は、「馬瀬村の埋蔵文化財」「馬瀬村の民俗文化財」「馬瀬村の文化財」として刊行され、展示資料の解説としても役立ちます。

展示室は、歴史と民俗に分かれ、700点余りの資料を収蔵しています。歴史展示室では、凹石、石冠、御物石器など貴重な資料が見られます。また、村に残る江戸時代の絵地図があり、当時の馬瀬村の様子がうかがえます。馬瀬の集落の一軒一軒が明記されているので、今の馬瀬と比較でき興味ある資料となっています。

民俗展示室は、ひねりみの、二重マントなど雨具・防寒具から御輿・馬荷鞍・大小月表示板など村で使用されていた資料が紹介してあります。また、水車鑑札は、米やその他の穀類をつくのには水車がいかに大事なものであったかを物語ってくれます。

開館時間 午前9時～午後4時30分

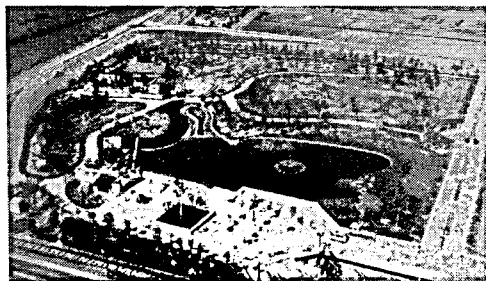
休館日 日曜・祭日・年末年始



研修会・公開講座報告

◆東海三県博物館協会交流研修会

第13回東海三県博物館協会交流研修会が10月18日(木)、19日(木)、海津町で開かれ、56名の参加を得て大変盛況であった。第1日は「各館の現状と課題」について、日本モンキーセンター動物園の水野礼子氏、鳥羽水族館の中村幸昭氏、高山屋台会館の谷田勉氏が発表された。つづいて、海津町長伊藤光好氏が「宝暦治水と近代の治水」のテーマで講演され、「義士の、木曾三川の治水にかける熱情」に深く感動した。第2日は、海津町教育長原田昭二氏の案内で、福原輪中、船頭平公園、治水神社、中央水郷地区センター・排水機場等を見学し、研修を深めた。



◆第10回博物館協会研修会

第10回会員研修会が11月11日(金)に岐阜市歴史博物館で開催された。実態調査結果の“会員の技術向上をはかる”をふまえ、「展示資料のディスプレイについて」という研修内容で、岐阜市歴史博物館の杉山伸樹館長補佐、黒田隆志学芸員にご指導していただいた。館開設に至るまでの施設・設備の工夫や常設展示場での効果的な展示方法、特別展市民のくらし100年の展示をふまえた展示技術についての解説など、内容豊かなものであった。19名の参加者のだれもが満足していただけた研修会であった。



◆第38回公開講座

「化石から見た岐阜県」 糸魚川淳二氏
「岐阜県博物館特別展、中生代の化石」見学
とき S 63. 10. 30 (月)
ところ 岐阜県博物館

本年度3回目の公開講座は、岐阜県博物館の特別展「中生代の化石」の講演を聴き、展示を見学する形で開催され、163名の参加者を得、充実した学習の場を持った。糸魚川先生は、地学(地質)から見た岐阜県の歴史をスライドを利用して説明された。新生代の中期には、日本の一部は奄美大島ぐらいの暑さであったという最新の研究成果も折り込まれ大変興味深かった。



◆第11回博物館協会研修会

第11回会員研修会が大垣市郷土館で開催された。当初、会員の親睦をはかることも考え、宿泊研修を含めて実施の予定であったが、参加者が少ないことから、12月4日(日)のみの研修となった。内容は「大垣市を例とした地方博物館のありかた」というテーマで、大垣市社会教育課の中井正幸氏の提案と、名古屋学院大学教授の広瀬鎮氏の助言及び講演であった。生涯教育の場としての博物館を利用者の立場にたって、充分検討すべき時期にきていることなどが話し合われた。参加者は12名であった。



動物園の現状と課題

日本モンキーセンター 学芸員 水野 礼子

財団法人日本モンキーセンターは昭和31年10月に文部省国際学術局所管の研究財団として発足し、翌32年には文部省社会教育局に博物館登録しました。

世界サル類動物園は昭和37年3月に開園し、モンキーアパートや放飼施設等を順次増設してきました。現在では、モンキーアパート4棟、南米館、類人猿舎、ビジターセンター、猿二郎コレクション館およびいくつかのサル類の放飼施設、さらに野猿公苑、三河湾海上動物公園の諸施設を保有しています。

博物館資料としての収集品は生きたサル類89種、約900頭のほか、生きたサル類より得られた多数の二次資料があり、さらにサルにまつわる民俗資料も多数あります。

動物園の形をとった博物館としては、生きたサル類を入館者の方々に見ていただくのが主眼であることはもちろんですが、それを生かした博物館普及活動にも力を入れています。ビジターセンターを拠点とした館内普及活動と「モンキー友の会」の会員を対象とした館外普及活動がその活動の主体です。

ビジターセンターには展示室、レクチャールーム、学習参考室がありますが、展示室では写真やパネルを用いて生きた資料では得られないサル類の情報を提供しています。レクチャールームでは事前に申し込みのあった団体を対象に学芸員がレクチャーを行い、学習参考室にはサル類に関する図書、資料等を置いてこれも学芸員が質問に答えています。

多年にわたってこれらの活動を行ってきましたが、やはりいくつかの問題点が出てきます。

普及教育活動面の一つの問題点を取り上げてみますと、これらの活動はプロパーの学芸員だ

けが行うものではなく、本来ならば動物園で働く全職員がそれぞれの立場で行わなくてはならないものだという点です。中でも、生きたサル類と多く接している飼育係員こそ一番大切な博物館教師といえるのではないのでしょうか。生きたサルたちは実に多くの情報を提供してくれるのですが、一般の入館者は通訳なしではそれを受けとめることができません。その通訳ができるのは飼育係員以外にはないのです。現場でひと言お客さんに話しかけること、それだけでお客さんの興味は二倍にも三倍にもふくれあがるのです。これを学芸員がうまくサポートしていけば、と考えるのですが現実にはその連携プレーは決してうまく行っていません。この点はこれからの課題として浮かび上がって来ています。

さらに、地域と密着した博物館のありかたがよく問われますが、私共もモンキー友の会の毎月の例会、サマースクール、写生会などを行っていますが、果たして地元の幼稚園や小中学校とどれほどの結びつきがあるか、積極的なPRを行っているかなど、まだまだ今後課題は残されています。

動物園自体の課題にも触れてみましょう。このところ、野生動物の保護にかかわる問題が絶えず話題になっています。かつての珍獣・奇獣にうつつをぬかしていた動物園のあり方が問題にされるようになりました。一例をあげると、各地の動物園をたらいまわしにされたパンダ興行に対して日本動物園水族館協会から十分考慮するようにとの通達が出されました。野生状態で絶滅に瀕しているパンダをこのような扱いをすることにより、種の絶滅を招くべきではないといった方向性からこのような処置をとることになったのです。動物園の方向を野生動物の保護、種の保存に全力を注ぐよう転換すべきだということです。もちろん、これは重要な問題ですが、動物園の経営面と理想的なあるべき姿を両立させるのはとても難しいことです。たとえ珍獣・奇獣でなくとも、動物園にも目玉商品が必要なのです。子供たちの大好きなゾウ、キリンやゴリラといった動物をかかす訳にはいかないのです。

このような問題をふまえて、今後の動物園のあり方を見直す時期にきていることは申すまでもありません。



この写真は「シルバートン」の親子です。親の名前は「スモール」といい、子育ての大ベテランです。この子供は12頭目の子で63年5月21日生まれます。(日本モンキーセンター)

博物館人としての十か条

鳥羽水族館館長 中村幸昭

鳥羽水族館は三重県鳥羽市、近鉄の鳥羽駅から5分、伊勢志摩の観光地のほぼ中央にある。

当館は、1955年に日本で26番目の水族館としてオープン、規模も小さく内容も貧弱なものだった。当初は自慢すべき内容はほとんどなく、プールにマダイ数匹を群遊させたのが唯一の取り柄。内容不足をサービスで補おうということで、開館からガイドの説明つきにした。このヒントは、日本で初めて宮崎交通が観光バスにガイドをつけたことである。現在でも修学旅行などの見学者のために十数人の訓練されたガイドがいるが、わが国ではいまでも当館だけのシステムだ。学術面では三重大学水産学部と組んだ伊豆七島、式根島の海洋生物調査団を皮切りに、奄美、ヤップ島、パラオ諸島、フィリピン、ハドソン川、マゼラン海峡、南極と次々と調査団を送り出している。

一方、お客さんとは飽きっぽいものである。ショーアップのためにも常に新しい話題を提供しなければならない。当水族館は数々の世界初、日本初の記録を作ってきた。スナメリ（世界最小のクジラ）の導入、その赤ちゃんの誕生、人気者ラッコの赤ちゃん誕生は日本初でもあった。ジュゴンのオスのじゅんいちが飼育9年という最長記録をもつ。ジュゴンのお嫁さんはフィリピンのアキノ大統領のプレゼントでセレナという。このセレナの日本移住の手続きも大仕事であった。ワシントン条約のクリアはもちろんだが、フィリピンのパラワン島の湾を仕切って体力がつくまで6カ月間飼育する。常時2人の職員が現地につきっきりである。だからこそジュゴンのお嫁入りが話題にもなり、お客さんもつかめるのではないだろうか。

ここで、私の十か条ともいべき考えをお話ししたいと思います。

1. アンテナを高く

高度情報化時代はあらゆる角度から情報を蒐め分析をして何が正しく役に立つかを選択する必要がある。特に複数の新聞を丹念に読みかえして国内だけでなく、海外ニュースに強くなろう。

2. 先手必勝

バイオニアは時には大きなリスクを伴うことが多い。だが、失敗を恐れず常にボイジャーのように挑戦する心が重要だ。人の真似をするの

は誰にでもできる。常にトップを走りリードすることがラッコブームなどにも象徴されよう。

3. 決断力を養成しよう どんなにいいプランが出来

ても実行するための決断が遅いとチャンスを逸する。実現するにはスピードがものを言う。速断即決が重要なポイントとなる。

4. 数字に強くなる

コンピューターの時代になったが機械に頼りすぎは禁物だ。私たちの頭のコンピューターをフルに稼働して徹底的に必要な数字を覚えよう。何回も繰り返してインプットできなければ人間失格である。

5. レポートリーを広く

どんなに優秀な人でも専門分野から脱皮できないのは残念だ。知的好奇心を持ち続け、専門外の知識を身につけて視野を広げる努力もまた大切である。

6. 一目ぼれをしよう

初対面の人と親しく仲良くなるにはどうすればよいか、態度、服装だけではなく話題がどれだけあるか、コミュニケーションを作る重要な時間である。

7. 記憶力テスト

過去の出来事をいつごろ、どこで何があったか、すぐに記憶を呼び戻すことは重要だ。道であっても、どこの誰か分からないようでは何をかいわんやである。

8. 社交性を巾広く

人間は誰でも「どんぐりの背くらべ」だ。話下手はいつも損をする。訓練によって上手になり、いつ、いかなる時でも臨機応変に対処しよう。

9. 積極展開

難しいこと、初めてのことには、とかく消極的になりがちだ。何事も、よしやってみようという難関にぶつかって行く勇気と積極策が成功の鍵となろう。

10. いつも心に夢とロマンを

名誉や地位、お金で人生は語れない。その人の持つ個性と、豊かな人間性が決め手である。他人のことを考えるおもしろいと、夢とロマンを生涯持ち続けることが幸せと言えよう。



生涯学習と博物館

森崎利光

昭和63年11月10日～11日の両日、栃木県宇都宮市の栃木会館において、第36回全国博物館大会が開催された。当日は全国各地の国公立博物館の職員が、約300名参加して行われた。

本年は、文部省の博物館担当局である、社会教育局が生涯学習局に改組され、生涯学習体系に移行したのを機会に、今後の我が国の博物館運営について、国が期待している博物館像を基調に、分科会のテーマは「生涯学習と博物館」—使命と可能性を探究して—ということで5分科会に分かれて討議が行われた。2日目に各分科会の討議結果を、一つに統合したパネルディスカッションを行い、更に討議を重ね、最終的に今後の新しい博物館像を描き出した。

大会は分科会の外に、全国博物館会議、記念講演として「東国古代寺院の造営」並びに文部省社会教育課長から「生涯学習施策と博物館」の話があった。

分科会は、望ましい博物館の方向について、望ましい博物館への期待に応える条件、望ましい博物館への利用者の声というテーマで、公私立別に分かれて行われた。

分科会・パネルディスカッションの中で話題になった内容は、次のようである。

- 生涯学習の推進には、公民館、学校、博物館の連携が必要である。
- 学校、公民館、図書館などで博物館資料を移動展示する。
- 幼少から高齢者までの教育について、館員自らが研修する。調査研究は深く、普及は楽しく分かり易く行う。
- 博物館施設は、生涯学習の中心的施設として、幅広い対象に開放さるべきである。接遇、文字、照度、解説などに注意し、「来てくれた人に観せる」でなく、PRし来館者には再度来館の気持ちを持つ工夫が大切である。



第36回 全国博物館大会決議

第36回全国博物館大会において、生涯学習体系のもとにおける博物館のあり方について、十分検討した結果、次の事項について決議した。

- I 我が国博物館は、生涯学習の中核的な施設として、他の文化施設と緊密な連携を図り、楽しく親しめる博物館として、特色ある積極的な活動を展開する。
 - II 前項の活動を効果的に行うために、次の各項を要望する。
 - (1) 博物館法の改正
 - (2) 学芸員等の地位及び資質の向上
 - (3) 税制
 - (イ) 特定公益増進法人の認定基準の大幅緩和
 - (ロ) 指定寄付の適用を容易に認められるよう簡易化
 - (ハ) 博物館の研究、教育、展示に必要な資料購入の場合、譲渡所得税の減免措置の設置
 - (4) 補助・助成
 - (イ) 生涯学習を積極的に推進するために、補助・助成の増額と新設
 - (ロ) 博物館情報ネットワークの構築に対する国の指導・助成
 - (ハ) 私立博物館の振興のために、公立博物館同様の国による助成の道を図られたい。
- (岐阜県博物館長)

ウィーン・パリの

自然史博物館を見学して

曾我敏男

昭和63年度岐阜県教職員海外研修ヨーロッパ班として、9月19日から10月4日までの16日間にチェコスロバキア・イタリア・オーストリア・フランスの教育事情を研修する機会を得ました。

その折に、博物館等文化施設を見学することができましたので、自然史系博物館の概要について報告します。

まず、見学しました博物館に共通することは、建物が立派で大きく（建物自身が文化遺産である場合が多い）、1日いても見飽きない展示点数を有し、実物を大がかりに見せようと工夫した展示が目につきました。また、博物館の一角が市民の広場となっていて、庭園と博物館とが一体として設計されていました。

〈ウィーン自然史博物館〉

ルネサンス式4階建、正面中央に吹抜きのドームを有する建物です。この自然史博物館と向かい合って全く同じ外観の美術史博物館があります。ヨーロッパの建築は、対称性が目につきますが、ここでは対をなす堂々たる建物にまず驚きました。この建物が完成したのは1889（明治22）年ですが、博物館そのものは1748（江戸中期）年の創立（東京国立博物館が1882年）と知り、日本の遅れを実感しました。

自然史系の博物館ですから、鉱物・植物・動物に限られた展示となっています。イグアノドンをはじめ恐竜の骨格標本がまず目に入ります。

オーストリアの氷河時代の古生物の化石が多数出土する関係から、古生物部門の毛サイヤホラグマの化石とか、ニュージーランドのモアの化石が見事でした。

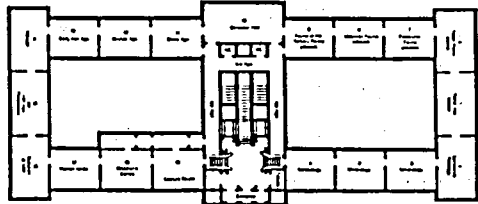
日本のカブト虫、真珠貝そしてパンダの剥製も展示してあり、全世界的収集のようです。

宝石と鉱物もところ狭しとかぞえ切れないほど並べられていました。

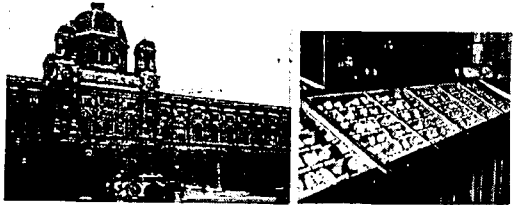
実物展示資料のあまりのおおさに、全てを見

学しない内に予定の時間がなくなりました。

LOWER LEVEL



（展示場の配置図）



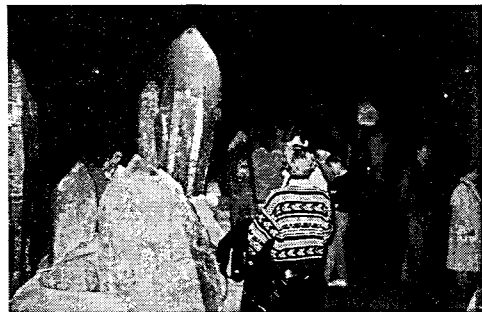
（ウィーン自然史博物館の正面）（鉱物展示の一部）

〈パリ自然史博物館〉

広大な美しい植物園（17世紀開園）の中に設置されていて、比較解剖学・古生物棟、化石・古植物棟、植物学棟、鉱物学・地質学棟の諸展示棟が2階建てで並んでいるほか、動物園、熱帯温室などがあります。

鉱物学・地質学棟には、24万点にのぼる鉱物標本が収められていますが、中でも千点に及ぶ宝石類を集めたルイ14世のコレクションなどが壮観でした。

フランスにおける自然史研究の中心で、世界1級の自然史博物館です。



（パリ自然史博物館の鉱物学・地質学棟の一部）

（岐阜県博物館 自然係長）

◎叙勲・受賞おめでとうございます。

- ・勲四等瑞宝章
松尾克美氏
岐博協顧問・元岐阜県博物館長
- ・日本博物館協会表彰
吉田幸平氏
岐博協顧問・濃飛甲冑研究所長
- ・岐阜県芸術文化顕彰
大橋桃之助氏
岐博協顧問・元岐阜県博物館長

◎新入館・園紹介

- ・大前美術館
郡上郡白鳥町白鳥
TEL 05758-2-2133
- ・白鳥町歴史民俗資料館
白鳥町ふるさと生活博物館
郡上郡白鳥町長滝
TEL 05758-5-2663

◎吉田幸平氏近況

岐博協顧問の吉田幸平氏はこのたび渡米されニューヨーク州立大学副学長及び学生部長に就任されました。一月まではカリフォルニア大学で集中講義をされるそうです。来春帰国予定。

◎岐阜市科学館増設オープン
(旧岐阜市少年科学センター)

岐阜市少年科学センターが、市制100年を記念して、プラネタリウム、天文台、展示室を増設し、岐阜市科学館と名称変更しました。

プラネタリウムは、ミノルタ製投映機で、約150,000個の星を映しだすことができます。アナライザーの設置された座席は224席あり、一部車椅子用スペース席となっています。

第4展示室「宇宙」と第5展示室「気象」が新たな展示で、コンピューターを使った映像や動的展示で、楽しく学習できるように工夫され

ています。

〔料金〕()は団体 大人 小人

プラネタリウム 展示室	500円 (400円)	200円 (120円)
展示室	200円 (160円)	100円 (60円)

◎第39回公開講座案内

期日 S 64. 2. 3 (金) 13:00～16:00
場所 美濃市文化会館 (美濃市泉町)
講演 「美濃市の町並み」 内木 茂氏
見学 「^{うだつ}税のある町並みー今井家・小坂家を
中心に」 (解説: 内木茂氏)
ぜひご参加ください。

◎第12回研修会案内

期日 S 64. 2. 15 (水) 13:00～16:00
場所 岐阜県博物館…研修室
内容 白黒写真の撮影と現像焼付
(定員15名・申し込み先着順)

編集後記

・未来博と高山博にわいた1988年でした。地方の時代、地域活性化とか地域性豊かな文化の創造などいろいろな場で叫ばれました。各館、園の果すべき役割が重大な時です。各地で地域と密着し、生涯学習の中心機関としてより充実した館、園に発展していただくことを祈念します。

・東海三県博物館交流研修会での鳥羽水族館長中村幸昭氏の^十方条は、これからの博物館人としてのあり方を示唆いただけました。夢とロマンを生涯持ち続けて仕事をしたいものです。

・機関紙委員全員で只今、加盟館・園の諸情報の収集にあたっています。より良いガイドマップ作製のためご協力下さい。